

2区川瀬 17人抜き区間賞

大会史上最多

秩父宮賜杯 第52回 全日本大学駅伝対校選手権大会

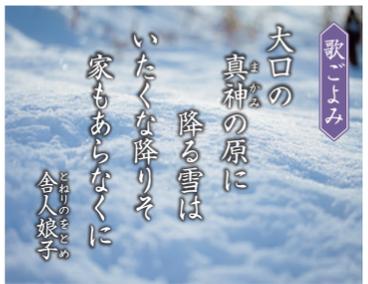


号砲とともに、一斉に走り出す選手たち。大学日本一をめざし、熱田神宮から伊勢神宮まで106.8kmを駆け抜ける〈写真/朝日新聞社提供〉

11月1日、秩父宮賜杯第52回全日本大学駅伝対校選手権大会が開催され、4年連続4回目の出場となる本学駅伝競走部は襷を繋いで17位でゴール。来年の東海枠を「2」に増やした。タイムもチーム最高記録となる5時間27分25秒をマーク。2区川瀬翔矢選手(現日4)は同大会史上最多の17人抜きで区間賞に輝く快走を見せ、「皇學館」の名を全国に轟かせた。

皇學館学園報

第85号
令和2年12月



注目記事

令和2年度 内定状況(中間報告)
394名が内定(内定率 58.2%)
採用日程の遅延響く

アカデミック

社会福祉士めざす学生が専門家とZOOMで座談会
●鳥羽市主催「しあわせのセブントーク」
酒品評会で「齋王」がプラチナ賞、「御裳灌川」が銀賞受賞
●産学官連携 日本酒プロジェクト

カルチャー&スポーツ

東海学生柔道特別大会(学内の部)を開催●皇學館大学柔道部

特別企画

駅伝特集

アクティブスチューデント

幸田悠さん(高校3年)がNHK番組で写真家・浅田政志さんと共演
皇學館高校写真部5名が「学び舎」をテーマに撮り下ろし

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学
大学院 | 文学部 教育学部
専攻科 | 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

終盤粘り17位。来年の東海枠「2」に

「皇學館」の名がこれほど連呼されたことが、かつてあっただろうか。11月1日に開催された全日本大学駅伝に4年連続4回目の出場を果たした本学駅伝競走部が昨年より約6分も縮める5時間27分25秒(チーム最高記録、17位でゴール。目標に掲げていた16位以内には一歩及ばなかったものの、4区間で区間賞が出るハイレベルなレース展開の中で期待に応える粘りの走りを見せ、来年の東海枠を「2」に増やした。

1区桑山楓矢選手(現日4)が21位、39秒差で襷を託すと、ハーフマソン現役学生最速のエース・2区川瀬翔矢選手(現日4)が大会史上最多の17人抜きで区間賞を獲り、3区佐藤楓馬選手(現日1)、5区鈴木翔也選手(現日1)、6区柴田龍一選手(現日2)、7区花井秀輔選手(現日2)が区間14位かつ皇學館新のタイムで伊勢路を駆け抜けた。

主将の平山寛人選手(教育4)は個人的には自身も全日本を走りたいと悔しさを滲ませつつ、「16位以内には届かなかったが、東海枠を2枠に増やす目標を達成できたのはみんなが頑張った結果。12月13日には来年の出雲駅伝出場がかかった東海学生駅伝が行われ

総合成績 8区間 106.8km

順位	大学名	記録
1	駒澤大学	5:11:08
2	東海大学	5:11:31
3	明治大学	5:12:24
4	青山学院大学	5:12:42
5	早稲田大学	5:13:04
6	東洋大学	5:13:15
7	帝京大学	5:14:40
8	順天堂大学	5:14:43
9	國學院大学	5:15:16
10	東京国際大学	5:17:05
11	中央学院大学	5:19:25
12	日本体育大学	5:19:35
13	山梨学院大学	5:20:03
14	日本大学	5:20:41
15	立命館大学	5:22:26
16	城西大学	5:23:29
17	皇學館大学	5:27:25
18	関西学院大学	5:27:35
19	びわこ学院大学	5:29:35
20	広島経済大学	5:32:03
21	京都産業大学	5:32:33
22	信州大学	5:36:25
23	札幌学院大学	5:36:56
24	日本文理大学	5:38:04
25	東北大学	5:47:38

5区に関連記事

5区は個人成績としては自身も全日本を走りたいと悔しさを滲ませつつ、「16位以内には届かなかったが、東海枠を2枠に増やす目標を達成できたのはみんなが頑張った結果。12月13日には来年の出雲駅伝出場がかかった東海学生駅伝が行われ

個人成績

★はチーム最高記録更新

区間	選手	記録	区間順位	通過順位
1区 9.5km	桑山楓矢(現日4)	27:46	★ 21位	21位
2区 11.1km	川瀬翔矢(現日4)	31:24	★ 区間賞	4位
3区 11.9km	佐藤楓馬(現日1)	35:57	★ 18位	15位
4区 11.8km	竹内啓一郎(国史2)	36:37	21位	18位
5区 12.4km	鈴木翔也(教育3)	38:18	★ 18位	17位
6区 12.8km	柴田龍一(現日2)	40:54	21位	18位
7区 17.6km	花井秀輔(現日2)	55:12	19位	17位
8区 19.7km	上村直也(教育4)	1:01:17	★ 14位	17位



区間14位と意地を見せた8区の上村選手(写真/朝日新聞社提供)

NHKラジオ第一放送にラジオ深夜便という番組がある。前夜の午後十一時頃から始まり、翌朝の午前五時に終わる。この番組の終りに毎日「誕生日の花」というコーナーがある▼朝、メールをチェックしながら聞くのだが、ここで取り上げられる植物はよく知っていても、外來の園芸種は名前だけではピンと来ず、ネットで調べて、ああこれかと思うものもある。百聞は一見に如かずとは将にこのことだ▼例えば、十二月八日の花はチャ(茶)で花言葉は「追憶」だが、一日の花はエラチオールペゴニアで「高貴」。このように名前に馴染みのないものがたまにある▼兎にも角にも季節の植物が日替わりで紹介されるので新たな気付きもある。ピワは夏の果物だが花の時期は冬。十二月十七日の花で「ひそかな告白・温和」が花言葉▼誕生日の花は倉田山でも見られ、冬季は花よりも赤い実をつけるものが多い。学園内で、今日の誕生日の花を見つけて林の中を覗き込んでみると、学生たちは怪訝そうにこちらを見ながら通り過ぎて行く。それもまた賑わいを取り戻したキャンパスの一コマである。



令和2年度 内定状況(中間報告)

394名が内定

内定率 58.2%
(令和2年11月1日現在)

採用日程の遅延響く

11月1日時点の就職内定率は58.2%(内定者数394名/就職希望者677名)と昨年同時期より6.4ポイント低下した。主な要因はコロナ禍により採用日程がおよそ1カ月後倒しになっていることなどが挙げられる。懸念されていた大卒求人倍率は1.53倍と、前年の1.83倍から0.3ポイント低下するも微減に留まり、就職氷河期の再来にはならないとの見方が大勢だ。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言の発令後、説明会の中止が相次ぎ、企業の採用選考が中断する事態となった。その中でWEBを活用した新たな選考方法が主流となり、対応に戸惑った中での就活となった。

合同企業説明会等の中止により学生からは業界・企業研究をする機会がなくなったと。コロナ禍の影響は受けつつも、まだ熱心に採用活動を継続している企業は多い。就活に引き続き取り組んでいる学生は「コロナのせいで」と諦めず、納得のいく進路を選択してほしい。また、令和4年卒の学生には、今年度のような異例の状況下でも早めの準備と行動、ポジティブさ、インターネットリテラシーでもって満足度の高い進路先に決まった先輩たちを手本に「今できること」「今すべきこと」を整理・自覚して、早期から就職活動に動き出してほしい。

いずれの学生にも大学では一人ひとりの希望進路実現に向け、徹底的にサポートしていく。神職奉職希望者に対する採用内定率は85.5%と、昨年の88.8%より3.3ポイント減となつてはいるが、概ね好調といえよう。内訳は学部生50名・専攻科生9名の計59名(自家奉職者を含む。昨年同時期48名)。神職養成担当では引き続き未内定者の個別面談や面接指

教職関係

三重県では90名が合格
9年連続トップ(既卒含む)

校種・教科等	現役	既卒	皇大計
小学校	28	48	76
中学校	2	3	5
特別支援学校	3	3	6
合計	34	56	90

校種	神奈川(国語)	名古屋(社会)※補欠
中学校	1	1
小学校	2	1
合計	3	2

令和2年度教員採用試験(公立学校)の結果が発表され、本学からは既卒を含め101名が合格を果たした。少子化の影響を受け全国的に採用抑制期に入っている中、特に三重県小学校では、76名が合格し、全体の合格者に占める本学の割合は33%と9年連続三重県トップとなった。

市町の幼保職については松阪市など6市町で14名が合格し、5市町9名については結果待ち。教職支援担当では、倍率、難易度ともに高い教員採用試験に備え、低年次よりキャリアガイダンスを実施。さらに4名の教職アドバイザーが中心

となり、奉職希望者が全員採用内定できるよう全面的に支援していく。導を行い、奉職希望者が全員採用内定できるよう全面的に支援していく。

となつて進路相談や履歴書・論文文添削、集団討論等各種面接練習など個人指導を徹底している。試験直前期には、学部教員による模擬授業指導や実技特訓(ピアノ、器械運動、リズニング)を実施。また、1年生から個人面談および論文指導を行い、教育問題等について調べ学習に取り組むなど早期から意識を高めるよう対策を講じている。教職希望者はこれらの制度を積極的に活用し、入念な準備をして試験に臨んでほしい。

一般企業 就活善戦

11月1日現在の企業・団体内定者数は267名。一部企業からの求人取消しや採用数減といった影響もある中で善戦している。6月から1カ月遅れの内定者数で推移してきたが、ここに至るまでに近づいてきている。

今年も金融関係22名、農業協同組合16名が内定を得ている。一部業界を除き企業の採用意欲は高いので、未内定者も諦めず活動してほしい。

公務員 人気はさらに高まる傾向

今年度の公務員試験はコロナウイルス感染症により日程の変更、更に警察官採用試験では春の採用試験が中止になるなど混乱した。現在、地方公務員二次試験に向けて面接

練習に取り組んでいる。現時点での公務員合格は、国家公務員一般職(文部科学省)内定、国税専門官、滋賀県警桑名市、伊賀市、志摩市、高岡市消防となつている。

神社関係 求人減も採用内定率は概ね好調

コロナ禍の影響か、11月1日現在の求人状況は、昨年同

時期に比べると50社90名減の106社164名となつてい

令和2年度 保護者対象 就職講演会・説明会を開催

希望者には動画を配信

令和2年10月4日(日) 13:00~15:30、尊の会(保護者会)主催の「保護者対象就職講演会・説明会」を開催した。新型コロナウイルス感染防止のため、事前予約制にて実施。129名のご出席をいただき、動画を希望された92名の保護者に配信した。

「昨年同様変わりした企業と学生の就職状況と保護者のフォロー」との題目で開かれた講演会では株式会社学情 学校企画部・副部长 江村朋裕氏がインターンシップと採用の関連の有無、コロナ禍による企業と学生の就職環境の大きな変化、就職状況の推移、コロナ禍での学生の動き、企業の選考方法の変化、企業の視点等、現在懸念されていることがピンポイントで解説され、最後に保護者が気を付けること、保護者ができるサポートを確認いただいた。

保護者の感想

- ◆親が何をサポートすべきか細かく聞くことができました。「現代の学生は優しく、親の言うことをよく聞く」という親としても納得のいく内容もありました。子どもたちの人生に共感し、支えていきたいです。
- ◆子どもに聞いても全体の流れがわかりづかったのですが、今回明快に説明していただき、子どもの普段の行動に寄り添いながらサポートできそうです。夫婦ともに教員ではないので大変参考になりました。
- ◆神社への奉職も簡単ではなく、しっかり意思をもって勉強する必要性を感じました。

内定者ボイス

一般企業編

コロナ禍により異例尽くしとなった今年度の就職活動。今回は一般企業の内定を獲得した先輩たちの声を紹介します。

- ① 苦労したこと
- ② 成功の秘訣・工夫
- ③ 先輩へのアドバイス

渡瀬菜南子(国文)



① 説明会やエントリー企業の採用中止。
② 就職支援室の内定報告書が筆記試験や面接対策にとっても役立った。
③ 予測不能の事態にも落ち着いて対応できるように準備を進めておくこと。



や声の大きさについてアドバイスしてくださり、本番も慌てず臨めた。同じ職種の企業を受け、面接の雰囲気や質問傾向をつかんだ。③就活前は不安でいっぱいだったが、就職支援室の先生に相談する中でやりたいことが見つかり充実した就活となった。先輩や先生方にも何でも相談して楽しい就活にしてください。



伊藤 翼(国史)

① WEB面接が大変だった。就職支援室の先生方との練習や回を重ねることに慣れていった。
② 早めの行動、説明会・インターンシップに何度も参加、就職支援室をフル活用。
③ 志望先が決まっていなくても合同説明会に参加しよう。

久保裕紀(教育)



① 試験日や内容など急に変更になることが多く不安が強かった。
② どんなにささいなことでも就職支援室に相談し、対策を教えてくださいました。おかげで冷静に行動できた。説明会に参加できた。アンテナを張っておこう。



小宮真風(国文)

① オンライン面接のやり方がわからず戸惑った。
② 就職支援室の方が目線

辻村美空(教育)

① オンライン面接だった

① オンライン面接だった

① オンライン面接だった

① 試験内容が例年と違いコロナ関連の話題があり予想が立てにくかった。
② 一足先に受けていた友人の話、就職支援室にある先輩方の内定報告書を参考にしたり対策を練ったり。
③ インパクトのあるエピソードを話せると印象に残る。面接で、参加していたCLL活動の日本酒プロジェクトの話をしたが、後日面接官の方が「日本酒の子だね?」と覚えていてくださり驚いた。

Academic アカデミック

館友会広島県支部から 広島県出身学生へ コロナ禍支援金



記念館にて執り行われた授与式

館友会広島県支部より広島県出身学生（9名）に総額481,000円の支援金が寄せられた。これは、新型コロナウイルスで日々の生活に不自由しているのではないかと案じた内田嘉彰支部長（大7史）の呼びかけで実現したもの。9月10日、本学記念館にて行われた授与式では高向正秀館友会専任常務理事より一人ひとりに手渡された。なお、各学生からは支部長宛てにお礼の手紙が送られた。

広島県支部の皆さまのご厚情に心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの終息 願い、内宮御垣内参拝



毎年10月17日に行っている神嘗祭の参拝が新型コロナウイルスの影響で中止になったことに伴い、10月16日、小串和夫理事長、河野訓学長及び学内の役職者計16名で内宮御垣内参拝を行った。令和2年度は例年毎月17日に実施している月例神嘗参拝を中止しており、久しぶりの参拝となった。当日は天候にも恵まれ、学園の発展並びに一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息をお祈り申し上げた。

上小倉教授の書が日展入選

改組 新 第7回日本美術展覧会（日展）の入賞者が10月19日に発表され、「第5科 書」の部門で文学部国文学科の上小倉一志教授（上小倉積山）が作品「李白詩」で見事入選を果たした。日展は「日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書」の5部門からなる総合美術展で、全国各地の応募作品の中から厳しい審査を経て選ばれた作品が展示される世界でも類をみない規模の公募展。今年度の書部門の応募総数は8,431点。うち、入選を果たしたのは1,069点と狭き門になっている。



板東准教授の著書が 日本思想史学会奨励賞受賞

昨年度サントリー学芸賞を受賞した神道学科・板東洋介准教授の著書『徂徠学派から国学へ―表現する人間（ベリかん社、平成31年刊）が日本思想史学会の第14回日本思想史学会奨励賞に全会一致で選ばれた。



スムーズに進行したリモート座談会

社会福祉士をめぐる現代日本社会学部2年の森啓悦さん、五百野未来さん、宮田論志さんが10月19日に鳥羽市主催で開かれた「しあわせのセブントーク」でのリモート座談会に参加。地域共生社会の推進に携わる厚生労働省の野崎伸一氏をはじめとする行政職・専門職の方たちと意見を交わした。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、座談会ツールであるZOOMを用いて鳥羽市役所、厚生労働省、本学を繋いで行われ、司会と座談会のコーディネーターは鳥羽地域福祉計画推進委員会委員長でもある現代日本社会学部の大井智香

子准教授が務めた。座談会は学生の質問と野崎氏からの回答を軸に進んだ。「社会が私達に求めるもの」「社会福祉士をめぐる自分たちが身に付けるべき力、今やっておくことは」といった学生からの問いに対し野崎氏は、「まず一人の生活者として『やりたいこと』を大切にしたい。また、日常の生活の輪の中に自分が元気づけきつかけがあることは多い。ソーシャルワーカーは制度に当てはめたり繋がりを強要するのではなく、たとえば繋がりたいと思ったときに入り口を調整し、社会をよりよく、できる限り誰もが誰かと繋がって安心して暮らせる環境を整える専門職として、果たす役割は大きい」など示唆に富むコメントとともに、社会福祉士をめざす学生に熱いエールをいただいた。

当日の様子は鳥羽市YouTubeチャンネルでライブ配信され、現在も公開中（<https://www.youtube.com/user/kohotoba/videos>）。本学においても社会福祉士国家試験受験資格を取得するための必修科目「相談援助演習Ⅰ」の授業として視聴された。

社会福祉士をめぐる学生が 専門家とZOOMで座談会

鳥羽市主催「しあわせのセブントーク」

1年神道学科の学生が春学期科目「初年次ゼミ」で実施したプレゼンテーションの優秀発表者と表彰式が10月7日に行われた。今回の課題は「神道・宗教について関心のあるテーマを選んで研究する」で、発表の動画からは、一人ひとりの努力がうかがえた。

今年度は新型コロナウイルスによるオンライン授業や図書館の利用制限等、困難なことが多かったにもかかわらず、発表者のプレゼンの質はどれも非常に高く優れていた。審査のポイントとしては話し方やアイコンタクト、ジェスチャーといった非言語コミュニケーションが評価された。最終選考に進出した7名（前列左が大越智さん）



最終選考に進出した7名（前列左が大越智さん）

「お諏訪さまから学ぶ精神」をテーマに発表し最優秀者に選ばれた大越智和都さんは「学ぶ力、発信する力を磨いてほしいとの先生の言葉通り、学修に励んでいきたい」と喜びを語った。

ニケーション技術もさることながら、第一に内容であり、学術的な裏付けがなされていること、また、それについて自分なりのオリジナルな意見が述べられているかどうかを重視。優秀なプレゼンテーションを皆で共有し、今後の参考にするなど各自が自身の成長に役立ててくれることを望んでいると、中山郁教授から説明された。最優秀発表者1名、優秀発表者1名には学科主任の松本丘教授より賞状と副賞が贈られ、そのほかの最終選考に進出した5名にも記念品が渡された。松本教授、板東洋介准教授からの審査講評の後、記念撮影を行い終了した。

優秀なプレゼン発表が 多数

神道学科「初年次ゼミ」

酒品評会で「斎王」がプラチナ賞、 「御裳濯川」が銀賞受賞

産学官連携 日本酒プロジェクト

本学のCLL活動である産学官連携「日本酒プロジェクト」から誕生した「神都の祈り・斎王」がヨーロッパで最も歴史のある日本酒に特化した品評会「ロンドン酒チャレンジ」でプラチナ賞を、「神都の祈り・御裳濯川」が銀賞を受賞。この快挙を受け、11月2日、明和町役場において「一般社団法人神都の祈り」代表理事で有限会社松幸農産代表取締役の松田文輔氏より河野訓学長、世古口哲哉明和町長らへの受賞報告会が実施された。河野学長は「産学官が協力して地元の稲を育て、その米で作った日本酒が世界で認められたことは大きな喜び」と語り、学生を代表して挨拶に立った大井理央さん（現日4）は「プロジェクトを通して地元へ貢献する人材になるにはどうすればいいかを考え、将来の目標を見つけるきっかけになった。今年はイベントもなく、販売機会がなかったが、この受賞を機に学生主体の販売活動や宣伝活動を再開できたら」と話した。



皇學館サービス(株)で販売中
「斎王」(720ml)
1本 3,000円(税込)
「御裳濯川」(720ml)
1本 3,000円(税込)
「斎王」「御裳濯川」
飲み比べセット(300ml×2本)
1セット 3,000円(税込)

お問い合わせ ● TEL 0596-22-8561

中澤ジュリアンさんが優勝

第21回 高校生英語スピーチコンテスト

コミュニケーション学科主催の第21回高校生英語スピーチコンテストが行われ、四日市メリノール学院高校2年の中澤ジュリアンさんが優勝した。



審査の様子

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、開催の是非を慎重に検討した結果、コロナ禍で日頃の英語学習の成果を発表する場が少なくなっている高校生にその機会を設けたいと、対面式ではなくスピーチ動画提出方式での開催を決定。応募者の減少が心配されたが、最終的にほぼ例年通り県内11校から36名が参加し、高校生の英語学習への意欲が感じられた。審査委員長であるコミュニケーション学科のクリストファー・メイヨー教授は「ある意味、一発勝負の壇上でのスピーチと違い、動画撮影は撮り直しができるので、かなりリラックスした様子が見られた。これまで同様、表情や声の調子を適切に変化させながらスピーチする姿、説得力のある内容に深い感銘を受けた。1位となった中澤さんの『手』に関するスピーチは印象的であった」と感想を述べた。

- 第1位 中澤 ジュリアンさん(四日市メリノール学院高校2年)
- 第2位 Maranoc Loraineさん(松阪商業高校1年)
- 第3位 小内 裕 貴さん(皇學館高校2年)

Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

久邇邦昭氏、兜・五月人形・剣を本学に寄贈



この度、久邇邦昭氏から兜・五月人形・剣を御寄贈いただいた。久邇家は本学の創設者である朝彦親王が、明治8年(1875)に「久邇宮」の宮号を賜って創設され、戦後は臣籍に降下された旧宮家である。邦昭氏は、昭和4年(1929)3月25日に久邇宮朝融王の第一男子として御誕生になられた。五月人形と剣は昭和5年(1930)の奉製で、特に五月人形は御母知子女王(伏見宮博恭王第三女子)の実家である伏見宮家より贈られた御品である。兜は昭和7年(1932)5月に、邦昭王が3歳の折の五月飾として奉製された御品で、御櫃には久邇宮家の御紋が金箔で押されている。末筆ながら、御寄贈いただいた久邇邦昭氏に対して、衷心より謝意を表する次第である。

皇學館高校 吹奏楽部が定期演奏会を開催
全国大会では優秀賞に輝く



全国大会出場常連校としてさらなる高みをめざす

皇學館高校吹奏楽部が9月21日(月)、三重県文化会館大ホールにて吹奏楽部第13回定期演奏会を保護者のみのご招待で開催した。第1部は「交響的序曲」で幕を開け、「風の谷のナウシカ」「エルカミーノリアル」と迫力のある演奏が会場に響きわたった。趣向を凝らした「パート紹介」で始まった第2部はダンスステージ、吹奏楽舞踊と続き、「情熱大陸」へ。全員の想いが詰まった演奏に会場の盛り上がりも最高潮に達し、やがて終盤に。感極まった部長挨拶や3年生紹介では多くの部員が目頭を熱くし、感動に包まれたフィナーレを迎えることができた。また、11月8日に出場した第26回日本管楽合奏コンテストでは優秀賞及びフォトライフ賞に輝いた。

校友会の3名に優良生徒賞
三重県私学大会は中止



左から、中ひなのさん、堀出萌絵さん、田村優我さん

今年は台風14号の接近に伴い10月10日(土)に開催予定だった第56回三重県私学大会は中止されたが、皇學館高等学校3年の田村優我さん(前校友会総務委員長)と堀出萌絵さん(前校友会総務副委員長)、皇學館中学3年の中ひなのさん(校友会総務委員長)の3名が優良生徒に選ばれ、表彰状を贈られた。田村さんは「学校行事の企画、運営に精一杯取り組んできたが、今後の課題として残ったこともあったので、次に続く後輩たちに委ねたい」と話し、堀出さんは「企画がコロナの影響でできなかったのは残念だったが、校友会というやりがいのある仕事にかかわれて嬉しい」と喜びを語った。中さんは「みんなの意見をまとめるのに苦労したが、やり遂げることができてよかった」と振り返った。



気迫に満ちた試合の様子

正しい柔道を皇學館から世界へ!

佐藤部長監修アプリ
JUDO SENSEI! 好評配信中!

佐藤武尊柔道部長監修の柔道動画アプリ、その名も「JUDO SENSEI!」が好評配信中だ。日本発祥の伝統武道である柔道を皇學館大学から発信し、全世界に正しく講道館柔道の真髄を学び取ってほしいと思ったことが開発のきっかけ。英語にも対応しているため、外国人柔道家にとっても最良の指南アプリとなっている。「日本でも武道必修化に伴い、保護者や先生方から指導に不安を感じるの声が上がっています。このアプリを手本に柔道の基本、本質を正しく理解し、役立てていただければ」と佐藤先生。「礼法」は現在無料公開中。

「まずは大会実施にご尽力いただいたすべての方に感謝申し上げます」と語るのは佐藤武尊部長だ。全国大会をはじめ各種大会が中止となる中、学生が日ごろの成果を発表できる場を何とかしてつくりたいと東海学生柔道連盟から声が上がると、同大会の実現に至った。学内の部とはいえ上位4位には同連盟、上位2名には後援の毎日新聞社より賞状が贈られる正式な大会。優勝者は本学代表として12月5日に行われ

「4年間一生懸命柔道をやってきた、そのけじめとなる大会。ライブ配信をしたので保護者の方々にも喜んでいただけた」と佐藤部長。記憶に残る大会となったに違いない。

東海学生柔道特別大会(学内の部)結果

60kg級	阿部 翔太(現日3)
66kg級	元嶋 大貴(教育4)
優 73kg級	下沢 直生(現日2)
勝者 81kg級	本田 凌万(現日2)
90kg級	南 大介(現日1)
100kg級	山本 晋平(現日4)
100kg超級	島 健輔(現日1)

東海学生柔道特別大会
(学内の部)を開催

皇學館大学柔道部

10月25日、2020年度東海学生柔道特別大会(学内の部)が本学にて無観客で開催され、7階級の優勝者が決定した。

4季連続リーグ優勝

皇學館大学硬式野球部



集中して練習に取り組む硬式野球部員

皇學館大学硬式野球部は1年生34名、2年生30名、3年生9名の計73名で、全面人工芝のダイヤモンドスタジアム伊勢にて17時から20時まで練習している。今シーズンは新型コロナウイルスの影響により、練習自粛、対外試合禁止の他、練習が再開しても少人数に限られるなど思うように取り組むことができなかった。そうした中、森本進監督の指導のもと、チーム全体で刺激し合いながら調整を行ってきた同野球部。その成果として、9月19日から行われた東海地区大学野球秋季三重リーグ戦では一戦一戦に全力を注ぎ、4季連続の

リーグ優勝を果たした。ご支援をいただいている皆様への感謝を胸に、2度目の全国大会出場に向け、練習の日々は続く。

過去3年間の主な成績

平成30年度

- 東海地区大学野球秋季三重リーグ戦 優勝
- 東海地区大学野球秋季選手権大会 優勝
- 東海・北陸・愛知 三連盟王座決定戦 兼 明治神宮大会代表決定戦 準優勝

令和元年度

- 東海地区大学野球春季三重リーグ戦 優勝
- 東海地区大学野球春季選手権大会 準優勝
- 東海地区大学野球秋季三重リーグ戦 優勝
- 東海地区大学野球秋季選手権大会 出場
- 東海地区大学野球三重リーグ新人戦 優勝
- 東海地区大学野球新人戦 優勝

令和2年度

- 東海地区大学野球秋季三重リーグ戦 優勝
- 東海地区大学野球秋季選手権大会 出場
- (春季三重リーグ戦は新型コロナウイルスの影響で大会中止)

皇學館 クラブ応援メッセージ募金のお願い(大学・高校)

本法人では、クラブ活動を通じた学生・生徒の主体性・可能性を伸ばす支援に取り組んでおります。

このたび、クラブ活動を頑張る学生・生徒へのご支援をお願いいたしたく、令和2年11月より新たに、「皇學館 クラブ応援メッセージ募金」を開設いたしました。

体育系や文化系の様々なクラブ活動に参加している学生・生徒は、日々、各種大会での好成績を目指して自己研鑽に励み、また、地域住民との交流や活性化に向けて多様な活動を行っておりますが、施設費・運営費・遠征費など、活動には多くの費用が必要となってまいります。

寄付先のクラブをご指定いただくことで、ご寄付いただいた資金を指定のクラブに直接配分し、クラブ活動の強化・充実に役立たせていただきます。

学生・生徒への応援メッセージとあわせて、皆様からのご支援ご協力のほどよろしく申し上げます。また、いただいた応援メッセージはHPに掲載させていただきます。

令和2年11月1日から受付を開始しています

募金金額	法人・団体	1口 2,000円	複数口のご協力をお願いいたします。
	個人	1口 1,000円	

※ご指定いただいたクラブが活動休止・廃部等になった場合は、該当クラブの寄付金は、大学・高校のクラブ活動全体の活動支援資金として活用させていただきますことをご了承ください。

対象クラブ

- | | | |
|---|---|---|
| 大学
体育系クラブ
●合気道部
●居合道部
●駅伝競走部
●空手道部
●弓道部
●剣道部
●硬式庭球部
●硬式野球部
●サッカー部
●柔道部
●少林寺拳法部
●女子軟式野球部
●ソフトテニス部
●卓球部
●薙刀部
●排球部
●バスケットボール部 | ●バドミントン部
●フットサル部
●陸上競技部
文化系クラブ
●アンサンブル部
●演劇部
●雅楽部
●華道部
●奇術部
●ギター・マンドリン部
●競技かるた部
●軽音楽部(JAZZ)
●軽音楽部(ROCK)
●考古学研究会
●祭式研究部
●茶道部
●写真部
●手話部
●書道部 | ●吹奏楽団
●煎茶道部
●ダンス部
●日本文化研究会
●美術部
●文芸部
●邦楽部
●放送研究部
●マンガ研究部
●よさこい部“雅”
●レクリエーション部 |
|---|---|---|

お問い合わせ ● 教学振興会事務局

〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL 0596-22-6313 FAX 0596-27-1704
Email suishin@kogakkan-u.ac.jp



特別企画

秩父宮賜杯 第52回全日本大学駅伝対校選手権 感動のレースを 監督・選手の言葉で振り返る

「可能性を期待」した選手配置

駅伝競走部監督 日比勝俊



この駅伝に向け、チームは昨年と比べても確実にレベルアップしました。1万mのベストタイムも飛躍的に更新され、昨年より大きく平均タイムを伸ばしています。絶対的エースもいます。駅伝で活躍できる要素は揃った、ように見えます。今年、学生らが目標に挙げた16位は、達成可能な領域ではあります。昨年よりレベルアップした」

「可能性を期待」した選手配置を行いました。15位以上もあるが、17位ギリギリの戦いで終わる可能性もある。そんなレース展開を想定しました。

ただひとつだけ叶えたいことは「先頭に立つ」こと。2区もしくは3区で、この全日本の舞台で「皇學館」の濃紫の襷が、テレビ画面の中央を独占する姿でした。

コロナ禍、本学の学生らは他の上位大学に比べ我慢の連続でした。今回19位までの大学で夏の強化ができなかったのは、本学だけです。「いつものとは違う大変な時期を送った」のはみな同様ですが、それでも、皇學館の学生は耐えてこの状況乗り越えスタートラインに立ちました。結果もさることながら、耐えた自分たちで掴んだ全国大会の切符。支えてくださった大学関係者、県民の皆さんに勇気と元気、感動を感じてもらえるようなレースにする事、そして何よりも自分たちもワクワクするような駅伝にして欲しい、そんな思いも含めた区間配置で今回は臨みました。

5区 ファミリーマート鈴鹿林崎町店前→ザ・ビッグエクストラ津芸店前 12.4km

【監督より】4区に比べ鈴鹿市内を走り抜ける走りやすいコース。但し、順位によっては、「単独走」で乗り切らなければならない可能性も高まって来る。昨年4区経験者鈴木に、経験を活かした走りを期待。

油断せず、全日本で戦えるチームに

鈴木翔也 (教育3)
区間順位18位 通過順位17位 38分18秒★

調子が悪い時期が続く、メンタルを保つことがきつかった。辞めたい時もあったが、諦めずに走ってきて良かった。少しずつ成長していると思うが、全国で戦うにはまだまだ力不足。今後は3年生がチームを引っ張っていかなければならない。来年2枠だからといって油断せず、全日本で戦えるチームを作っていかなければと感じている。



6区 ザ・ビッグエクストラ津河芸店前→ベイスクエア津ラッツ 12.8km

【監督より】区間配置変更で、7区も長距離区間になった今、6区の重要性が増した。前後のチームとの差をどう保ち、どう引き離すのか。その走りでの7区の走り方さえ影響を与える。大きな大会で、驚くような快走を見せる事が出来る柴田。その意外性に賭けた。

悔しさと申し訳なさでいっぱい

柴田龍一 (現日2)
区間順位21位 通過順位18位 40分54秒

ジョグをこなすうちに、夏に思うように練習ができず抱えた不安がなくなり、楽しんで走ろうと思ひ込んだ大会だった。しかし、力を出し切れず、悔しさとチームに迷惑をかけた申し訳なさでいっぱい。来年もう一度全日本でリベンジしたい。



7区 ベイスクエア津ラッツ→JA松阪前 17.6km

【監督より】2018年の区間配置変更で、約6kmも延長された7区。余程のことがない限り単独走で、18kmを走れる選手の起用が求められる。今夏、三重の暑い中でも、根気強く距離を伸ばした花井に、粘り強く走り抜いてもらう。

三重県に愛されている大学と実感

花井秀輔 (現日2)
区間順位19位 通過順位17位 55分12秒

「楽しもう」「1秒でも速く襷を繋ごう」という気持ちで走った。大勢の人が応援してください、三重県全体に愛されている大学だと改めて実感した。そうした方々に勇気と感動を与えられるように、自分のレベルを上げ、これからも頑張っていきたい。



3区 長島スポーツランド前→霞ヶ浦緑地前 11.9km

【監督より】2区同様、エース級が集う区間。後方からの追い風にアシストを受け、ハイペースのラップを刻む。2区で先頭に立った事を想定し1年生ながら急成長中全全国のスポットライトを浴びている佐藤楓馬の可能性に賭けた。

「打倒関東」をめざせるチームに

佐藤楓馬 (現日1)
区間順位18位 通過順位15位 35分57秒★

走力以上に、全国大会という大舞台で力を発揮できるメンタル、覚悟、経験の差を痛感した。この経験が「関東に勝てない」と壁を作るものではなく、「打倒関東」をめざせるチームを作り、引っ張っていきけるよう、自分自身も力を付けてもう一度伊勢路でリベンジしたい。



1区 熱田神宮西門前→ファーストカーゴ前 9.5km

【監督より】2018年大会より各区間の距離編成が変更され従来より5kmも短くなった1区。しかし、その重要性は変わらない。細かなアップダウンが6回も繰り返され駆け引きも重要なこの区間。今秋1万mで初の28分台をマークした桑山。その勢いで上位での襷リレーを期待して起用する。

このままでは終われない

桑山楓矢 (現日4)
区間順位21位 通過順位21位 27分46秒★

大会直前に自己ベストを更新しかなり自信を持ってスタートラインに立った。しかし、結果は21位と自分の走りとしては納得のいかない悔しい結果になってしまった。このままでは終われないので、東海学生駅伝では良い走りができるよう頑張りたい。



2区 ファーストカーゴ前→長島スポーツランド前 11.1km

【監督より】1区に続いて短い距離ながら各校のエースが集う。ハイペースな展開の中で順位が目まぐるしく変わるスリリングな区間。昨年もこの区間で区間11位ながら区間新記録で走った川瀬。ヒーローに成り損なった昨年のリベンジは、皇學館が初めて全日本の先頭に立つ事で果たす。

「打倒関東」を後輩に託す

川瀬翔矢 (現日4)
区間賞 通過順位4位 31分24秒★

攻めの気持ちで臨んだ。区間賞、17人抜きは嬉しかったが、区間新・先頭を走ることはかなわず、納得できない部分もまだまだある。「打倒関東」という今回達成できなかったチームとしての目標は後輩に託したい。卒業後は実業団で日の丸を背負える選手となり、皇學館大学と三重県に恩返ししたい。



4区 霞ヶ浦緑地前→ファミリーマート鈴鹿林崎町店前 11.8km

【監督より】淡々と直線道路が続く4区。単独走に長けた者が快走する区間。かつ16位以内を目指すとなれば、この区間の走りが重要となる。10月に1万mで自己記録を30秒以上更新した竹内。その勢いで、力以上の快走を期待。

来年、再来年の全日本でリベンジ

竹内啓一郎 (国史2)
区間順位21位 通過順位18位 36分37秒

自己ベストを大幅に更新して意気込んで臨んだが、21位と自分としては悔しさが残る結果となった。チームとして東海地区2枠を獲得できたことはよかった。2年生なので来年、再来年を見据え、しっかり練習して全日本でしっかりリベンジしたい。



8区 JA松阪前→伊勢神宮内宮宇治橋前 19.7km

【監督より】全行程で最も距離の長い区間。今シーズン、就職を賭けた実業団合宿参加のお陰で、チームで唯一、30km、40km走を行ってきた上村にアンカーを託した。最後の大学駅伝。母校の前を、笑顔で駆け抜ける事をテーマに挑む。

たくさんの応援が走る力に

上村直也 (教育4)
区間順位14位 通過順位17位 1時間01分17秒★

たくさんの応援がエネルギーとなり力を出し切ることができた。楽しく思い出に残るレースとなった。出雲駅伝の切符をしっかりと取って、最後は笑って卒業できるよう、残りの期間しっかり練習していきたい。後輩たちには関東勢と競い合える力を付けて、今年よりも強いチームを作ってほしい。きっと叶えられると思う。



五輪選考・日本陸上選手権に川瀬翔矢選手が出場

川瀬翔矢選手が9月13日に出場したインカレ5000mで2位(13:42.60)、10月18日の東海大学記録会10000mで2位(28:18.25)を記録。五輪選考でもある12月4日開催の日本陸上選手権の参加標準記録を満たし、同大会への出場権を獲得した。川瀬翔矢選手は「三重県で強くしてもらったので、三重県に恩返しできる走りを」と意気込む。今後のさらなる活躍に注目だ。



★はチーム最高記録更新

「家庭に感謝する日」の行事

10月30日、「家庭に感謝する日」の行事が高中で行われ、生徒たちは心静かに、集中して教育勅語を謹書した。これは、昭和41年以来の学校行事であり、謹書は後日装丁して明治神宮に奉納される。(以下は、感謝の気持ちをしたためた作文の一部抜粋)



祖父母の注意

皇學館中学校3年B組 井村優月

私はよく祖父や祖母とケンカをしてしまうことがあります。ケンカといっても声をあげたり、長いこと口をきかなかったりとか、そんなものではなく、1、2時間もすれば勝手に終わっていて、笑いながら一緒にお菓子を食べるような小さなものです。しかし、そんなケンカでも、ほぼ毎週のようにしていたら、さすがに気まずくなってしまいます。

きっかけは簡単なことです。「早く宿題をしなさい」「もっと運動しなさい」とか、だらしないのんびりしているときに注意されると、本当なら「わかったよ」と素直に従うべきなのに、つい「そんなことくらいわかってるよ」と、ひねくれた返事をしてしまいます。すると祖父母の小言が始まり、対して反論する私。それでいつもケン

カになってしまうのです。でもこの作文を書くことになりよく考えてみたら、今まで「うるさいなあ」とイライラしていた祖父母の小言がいかにありがたいことだったのかが、ようやく理解できました。

孫がどんなに言うことを聞かなくてもあきらめずにちゃんと指導し、将来良い人間になれるように私を注意してくれている祖父母。そんな祖父母が居る私はとても幸せな生活を送れているんだなと気づけました。祖父母が叱ってくれなかったら、私はマナーの守れない人間になっていたと思います。だから今度注意されたら、言い返したりせず、「ありがとう」と感謝するようにします。そしてこれからもずっと仲良く暮らしていきたいです。

両親に支えられている日常

皇學館高校2年8組 中西日向子

我が家の朝は5時に始まる。始発に乗って行く私のために、父は毎日私を起し、お弁当と朝ごはんを用意して駅まで送ってくれる。帰りも遅くなると迎えに来てくれる。そのせいか土日は眠そうにしている。申し訳ないと思うのと同じ

時に、頼りにしきっており、高校生になってからの毎日の忙しさに付き合っている自覚がある。母もそうだ。そのことを大きく感じたのはやはり受験だ。大学受験は高校受験とは比べ物にならないほど難しい問題だった。私は漠然とした希望ばかりで真剣に考えられずにいた。塾に通わせてもらっても、外部の試験を受けさせてもら

っても、どこか他人事のように思える自分がいた。でも、母は私以上に熱心に、大学のサイトやパンフレットなど私が興味を持ちそうな情報があれば教えてくれた。

今、ようやく自分のやりたいものが見えてきて自分で調べるようになったが、塾で帰りは遅く、両親と話し合う時間も増え、ふたりにかかる負担がますます大きくなっていて感じる。でも私の進路を応援してくれていることが何より嬉しい。そんな両親への恩返しは、まずは大学を合格してから決めていこう。将来どうなっているかはわからないが、今までの分も含めて感謝を伝えよう。

地震避難訓練で防災意識を向上

10月20日、中学校・高校合同の地震避難訓練が実施された。今回の地震避難訓練は、震度5強の東海地震が授業中に発生したとの想定で行われた。11時10分に地震発生非常放送が入ると学級担任が第1次避難の指示をし、生徒は頭部を守るために机の下に身を隠し、机の脚をし



っかりと握った。同時に学級担任は教室の出入口を開け避難口を確保した。この間に担任以外の教員は避難経路の安全確認を行い、確認が終わると「避難開始」の指示により第2次避難を開始した。避難誘導係教員の指示を受け、生徒は冷静に速やかに避難場所へ移動することができた。避難場所は中高第2駐車場、精華寮前駐車場となっていて、集合後点呼を受けた。その後、各教室で学校長の全体講評を聞き訓練は終了した。今回の地震避難訓練を機に、今後発生が想定されている東海地震への備えと防災意識の向上を図っていきたい。

中高合同

コロナ禍に関わらず1120名が来場

第1回オープンスクール

本年度の第1回オープンスクールは、新型コロナウイルスの影響から、例年の8月開催から9月へとスライドさせ、9月12日(土)、13日(日)に実施した。また、校舎見学スタンプラリー、学食体験などのイベントも中止し、時間を短縮し、規模を縮小しての開催となった。しかし、このようなコロナ禍にも関わらず、来場者は



熱心に説明を聞く来場者



好評の吹奏楽によるコンサート

1120名にのぼり、たくさんの方々に参加していただいたことに感謝している。内容は学校説明および入試説明、吹奏楽による歓迎コンサート、クラブ見学、進学相談会など。来場者の表情からは短時間ながら充実した時間を過ごした様子が窺われた。

第2回入試問題解説会(10/10)は残念ながら暴風警報の発令により中止となったが、その内容は第3回(11/15)に組み込まれ、約400名の来場者を迎え開催することができた。

皇學館高校陸上部が4種目で全国大会に出場!

皇學館高校陸上部が4種目において全国大会に出場。10月16~18日に神奈川県、23~25日に広島県で練習の成果を発揮した。結果は右記の通り。

10月16~18日 神奈川県			
400mR	野呂仁人(3年)	中東大輔(3年)	予選4位(40.84秒)
	中西一冨(2年)	山田真大(2年)	
10月23~25日 広島県			
400m	野呂仁人(3年)		予選4組5位(48.77秒)
110mH	山田真大(2年)		B決勝7位(14.36秒)
	打田快生(1年)		予選6組8位(14.59秒)
棒高跳	高山華梨(2年)		決勝18位(3m30)

高校

コロナ対策に万全を期して開催

令和2年度 体育大会

10月18日、皇學館中学校で令和2年度体育大会が実施された。前日までの雨模様、新型コロナウイルス感染症対策など、開始まで不安の尽きない体育大会となった。

「三密」の心配がある競技を取り止め、体育の授業で行う練習の時から万全の対策をとり、当日は競技が済むたびに手洗いと除菌を励行した。保護者の皆さまにもソーシャルディスタンスを確保しての観覧となるなどご協力いただいた。

高校では10月29日に第3学年、10月31日に第2学年、11月21日に第1学年がそれぞれ体育大会を実施した。晴天に恵まれた中、クラスTシャツが大会を彩り、2時間という短い時間だったが全員が熱心に取り組んでいた。新ルールでのクラス対抗リレーや全員参加の大縄跳びではクラスの団結力を発揮する機会となり、本番ではどのクラスも練習以上の結果を出し盛り上がりを見せた。



カラフルなクラスTシャツを着て全力で取り組む生徒たち(高校)

最高の体育大会

皇學館中学校3年B組 西井雄一郎

前日から心臓をバクバクさせて臨んだ体育大会。なのに僕は遅刻してしまい、情けない思いで開会式を迎えました。

最初の出場競技は「トラップレース」。前走者からバトンを受け取ったときに、みんなの思いが手のひらに熱く伝わって、「この勝負絶対負けん!」とゴールを駆け抜けました。着順が1位だと知らされた時の嬉しさは、天にも昇る心地よさでした。テントに帰ると、みんなが「西井お疲れやったな!」と声を掛けてくれ、人の気持ちに伝えることがこんなに気持ちの良いことだと知りました。みんなの士気

も上がって、次の「キャタピラー走」も3Bは1位でした。

そして待ちに待った「十人リレー」。僕はアンカーを任せられ、プレッシャーに押しつぶされそうでしたが、学校でいちばん速い辻岡君が「まっ、西井は3Bのエースやからな」と笑顔で励ましてくれたので肩がふっと軽くなりました。しかも、辻岡君が2位との距離をグンと延ばしてくれたおかげで、僕は1位でゴールすることができました。感動でした。「ありがとう、みんな。やっば、3B最高!」

高校・中学校

イベントカレンダー

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、講座を中止する場合がございます。

お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室へお願い致します。TEL 0596-22-8635

時間 場所 (●本学 ●他) 料金 対象 予約 問合せ

2月

6 皇學館大学ふるさと講座
土 名張の言葉—名張市史の調査から—
 講師 ● 齋藤平 (文学部国文学科教授)
 14:00~
 名張市防災センター2階 防災研修室
 無料 一般 必要 (先着順)
 名張市教育委員会 文化生涯学習室
 0595-63-7892

近鉄文化サロン阿倍野 共催講座

会場 ● 近鉄文化サロン阿倍野

詳細は近鉄文化サロン阿倍野 (TEL 06-6625-1771) へお問い合わせください。 **有料・要予約**

12/26 (土) 15:30~

神道と仏教「社寺と妙見信仰」

講師 ● 河野訓 (学長・文学部神道学教授)

1/9 (土) 15:30~

古代撰津国の伝説と風土記

講師 ● 橋本雅之 (現代日本社会学部現代日本社会学科教授)

2/6 (土) 15:30~

『日本書紀』を読む「仁徳天皇(1)」

講師 ● 大島信生 (文学部国文学科教授)

3/20 (土) 15:30~

『日本書紀』を読む「仁徳天皇(2)」

講師 ● 大島信生 (文学部国文学科教授)

皇學館大学コミュニケーション学科主催

第2回 英語発信力コンテスト

開催のお知らせ

英語による映像作品募集中!

テーマ

自由。ただし、学生による発表として適切なものに限りです。

概要

グローバル社会において英語の実践的な運用能力が求められている中、本学学生の英語学習に対する動機付けを高め、英語力の向上と英語による発信の場を与えることを目的としています。

作品規定

- スピーチ、劇、翻訳、授業内でのプレゼンテーション、模擬授業、テレビ番組、学会発表など今年度内に作成した英語のみによる成果物であれば形式は問いません。
- 作品時間は個人・団体共に5~15分を原則とします。動画はMOVまたはMP4の形式で作成し、制限時間内に収まる一貫した内容になるように適宜編集してください。
- 映像作品とは別に、映像のハイライトシーンをまとめた5~10秒の動画を作成してください。
- 作品を作成する際には、著作権等の第三者の権利を侵害しないように注意してください。

応募資格

本学在学学生 (学部生、留学生、大学院生、専攻科生)

応募方法

詳細は下記のURLよりご覧ください。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/information/detail.php?mdid=5769>



応募期間

12月11日(金)~18日(金) 必着

問い合わせ・応募先

コミュニケーション学科

〒516-8555 伊勢市神田久志本町1704番地

E-mail commu@kogakkan-u.ac.jp

コロナ禍で一般公開中止も無事に開催

第58回 皇高祭

9月17日(木)

テーマ ● Teenager forever
~明日を信じ、未来へ走り出そう!~

開催できたことに感謝と喜び

校友会総務副委員長
今 西 海央里 (2年10組)



新型コロナウイルスの影響の中、皇高祭を開催できたことに喜びを感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。例年とは違い半日の開催となり、その中でどう楽しく盛り上がるか校友会で試行錯誤した結果、出てきたアイデアは「クラス対抗クイズ大会」。私たちの想像以上に盛り上がり先生方から聞いて、心の底から安堵しました。また、協力して満点を取っているクラスも多く、団結力の強さを感じました。

学年&クラス制作ではみんなで力を合わせ一つのものを作りました。時間をかけて作り上げたことで、仲間との絆がより深まったと思います。

クイズ大会や学年&クラス制作でのみんなの取り組み姿は団結力に溢れ、キラキラして見えました。私は今年の皇高祭を通して団結力の素晴らしさを知りました。来年度の皇高祭もみんなが輝けるものにしたいです。



祭典(オンラインで中継)



3年生 学年制作「祈念樹」



家庭部展示



写真部・書道部・文芸部展示



皇高祭校友会レク(クイズ大会)を進める校友会メンバー

第41回 皇中祭

9月5日(土)・6日(日)

テーマ ● 夢の景色へ走り出せ!
~無限の力を結んで~

SDGs、優れた発表を学べた皇中祭

上 野 里 奈 (2年B組)



私は皇中祭の準備を始めるまでSDGsという言葉も一度も聞いたことがありませんでした。しかし、今回「貧困・飢餓」について調べていくと、SDGsがどのようなものか少し知ることができたと思います。また、どのクラス発表も上手でしたが、特に印象に残ったのは3年B組の「すべての人に健康と福祉を」です。私たちのクラスとは違い劇を取り入れた発表で、とてもわかりやすい内容でした。伝えたい要点がすっきりまとめたこととわかりやすい理由だと思います。こうした発表ができるようになりたいと思った今年の皇中祭でした。



動画制作風景(2-B)

世界のために、何ができるか考えてみた(2-B)

大学 学内で作品展示・発表

コロナ禍のため中止となった倉陵祭に代わり、文化系クラブが学内で作品展示を行った。華道部、写真部は、学生が多く行き交う場所に展示したため、足をとめて作品に見入る姿が見られた。軽音楽部の発表は夕方少し寒い中ではあったが、テラス席で温かいお茶を飲みながら生演奏を楽しむ様子が見られた。



以下の部も展示・発表予定です。

	開催時期	開催場所	発表内容
書道部	12月上旬~ (作品は入替予定)	図書館	作品展示
		5号館1階廊下 ※期間後も常時展示	作品展示 (1年生展)
演劇部	12月17日(木)の5講時	521教室	1時間ほどの演劇

リレーエッセイ

私の学生時代



皇學館中学校教頭
山形 達哉
皇學館大学文学部国文学科卒業

学生時代に成長の好機が

大学の教員採用試験セミナーでの出来事。「押印の印影が斜めに歪んでいきます。もう一度書き直します」。ふてくされた顔で「はい」と願書の下書きを受け取り、山形の「山」の一画目が真っすぐ垂直になるよう再度書き直したものに押印する。「押印だけで書き直したものに『山』って垂直画が三本もあって目立つて損だなあ」と呟きながら。

私は本学文学部国文学科で教員になることを夢見て日々勉学に勤しんだ。専攻は近代文学。卒論は「詩人『室生犀星』の小説にみる家族観研究」に取り組んだ。研究のためには暇を惜しまない。大学の図書館はもちろん、参考文献が他大学の図書館へ。金沢にある資料館、犀星の生家をも訪問させていただいた。そういえば、友人たちと夕食のラーメンのためだけに伊勢から県境を越え、天理まで出かけることも数えきれないほどあった。学生時代の私はアクティブであったことだけは間違いなかった。当時の私は「考えるより行動しろ」だった。中学校時代は在学中全国大会にも出場したテニス部に所属していた。

「水は飲むな」「グラウンド10周走ったから飲んでもいいが、ボール4個人入れの筒缶で一気」の体育会系。昔よくある体である。まとめ役ということもあり、率先して行動を起こし、仲間の部員たちに背中を見せる必要もあった。今振り返ると、高校大学と進学し大學生活も終盤を迎えたとき、ひたすら突っ走った感のあるそんな私に大切な「真髄」を与えてくださったのは、あの「押印指導」だったと思う。些細なことに見えても奥深い大切なことがある。現在の私は真つすが押印するために印体にある隆起物を人差し指で押さえ、印面をのぞき込み、ゆっくりと落ち着いて抑え込む。行動を起こす前に気を整え、見ていただく受け取り手を意識しながら自身を表現するのである。

押印ひとつにでもこだわってきめ細やかな正しい道を教え授ける。これが皇學館教育だと感じる。私は母館で今日も次世代を担う子どもたちに向かい合っている。たとえ、ふてくされでも指導に遠慮はない。10年後立派になつてくれよと心の中で微笑んでいる。こんな幸せな毎日を送っている。

アクティブ スチューデント

Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

幸田 悠さん(皇學館高校3年)が NHK番組で写真家・浅田政志さんと共演

左/番組では被写体になるなど貴重な経験になったと語る幸田さん
右/番組で幸田さんが撮影した家族写真



数々の写真コンテストで入賞している皇學館高校写真部の幸田悠さん(3年)が10月9日放送のNHK番組・みえスペシャル「セルフタイマー〜浅田家と高校生〜」に出演した。同番組は、代表作『浅田家』で写真界の芥川賞といわれる木村伊兵衛写真賞を受賞し、同作品をもとにした映画でも注目を集める津市出身の写真家・浅田政志さんと、幸田さんを含む4人の高校生による

写真の授業。「一生に一枚の家族写真」との課題に、幸田さんは家族4人で毎年訪れている神社をメインモチーフに撮影した。「鳥居を作ったり、そういう過程も踏まえて家族のことを知れてすごく楽しかったです。現在の家族を写した大切な一枚になりました」と話す幸田さん。今後の作品がますます楽しみです。

特別企画

活躍めざましい皇學館高校写真部のメンバー5名による撮り下ろし作品を紹介します。



「ひとりの時間」 2年7組 木田 帆南

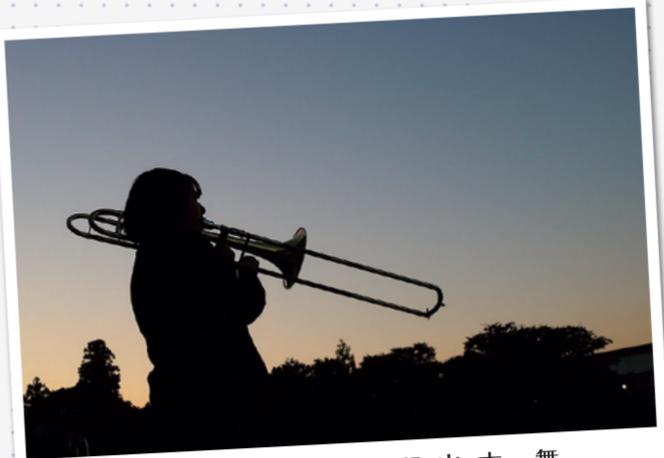
にぎやかな時の狭間に、ふと一人になる瞬間がある。グラウンドの方に目をやると町並を越えて、遙か遠くに海が見えた。心落ち着く一人の時間に出来た昼休み。

テーマ ● 学び舎



「誰もいない教室」 2年7組 前村 璃子

ホワイトボードに残る授業の名残りに10分前までの雰囲気を感じる。誰もいなくなった教室。次の授業の準備の合間に思った。ここは私のクラス。



「放課後の音色」 2年5組 山本 舞

3カ月の間校舎は静かだった。放課後の教室から楽器の音色は消えていた。ある日の放課後、グラウンドを見渡す体育館横から夕暮れの空に懐かしい音が響いた。



「仲良し」 2年4組 磯和美冬

2年生の体育大会の日。貴重な行事の一つだった。種目は減ったけど去年以上にみんなで跳んだ、走った、そして応援した。最後に友だちと記念撮影。楽しかった……。



「昼休み」 2年2組 森口心暖

昼休みはいつも楽しい。でも、お弁当を食べるだけではない。くつろぐひととき。友だちとのちょっとした会話。この日も教室に明るい笑顔がいっぱい広がった。



写真部は現在84名で活動し、高校生の視点で、高校生時代に、高校生の自分にしか撮れない写真を目指して撮影しています。学校生活、友人、家族、兄弟、姉妹など身近な人を題材にした写真が多く、他には空や雲の表情、近隣の風景、身の回りの物なども撮影します。普段は白黒フィルムを使った活動が多いのですが、今回は「学び舎」をテーマに学校生活の一場面を切り取ったカラー写真でフォトエッセイを作りました。
写真部顧問 佐々木英人先生